

開催にあたって

尊敬する石川教授、上田先生、日本人のご来賓の皆様、先生の皆様、学生の皆様、紳士淑女の皆様：

私達が長く待ち望んでいた「第一回中日犯罪学学術シンポジウム」は、中日両国の関係者の共同努力を経て、本日、ここ中国青年政治学院で開催することになりました。私は、謹んで中国犯罪学研究会を代表し、又、私個人の名において、労苦をいとわず、はるばるシンポジウムにご臨席くださった日本人の先生方に心から歓迎と感謝の意を表します。

また、主催者である中国犯罪学研究会と日中犯罪学学術交流会を代表し、ご多忙中、シンポジウムに参加してくださった国内外の専門家、学者の皆様に、心より歓迎と感謝の意を表します。

北京の初秋は、空が高く天気がさわやかで、風景が壮美です。第一回の中日犯罪学学術シンポジウムは、このような美しい季節に、北京で開催することができた今日という日は、記念するに値する一日です。

学術交流は、学術の発展に避けられないものです。交流とは、異なる意見の間で相互に啓発し、勉強し、参考しあうことであると考えております。交流を通じて始めて、人類の思想は豊かになり、発展するのです。交流者の間に差が大きければ大きいほど、交流の作用は更に大きくなるものです。国家間の交流は、異なる文化系統の交流ですので、その意義は一層大きいだろうと思います。中日両国の犯罪学に関する学術交流は、両国の犯罪学の発展にとって、大いに促進する役目を果たすものであると思います。

そのために、両国犯罪学の学術交流が絶えず発展し、絶えず新しい成果を取得することを、心からお祈り申し上げます！

中日両国における犯罪学の正式な交流は、歴史がまだ長くありませんが、

発展のスピードは速く、交流の程度も日一日と深まり、その効果は勢いを増して広がっております。実は、昨年、中国の四川省綿陽市で行われた犯罪学会の年会において、両国の犯罪学の学术交流は既に始まっていました。その学术交流会にご臨席なされた石川教授、佐伯教授、本郷様は、今回も出席して下さいました。両国の犯罪学交流のためにお力を尽くされる貴い精神に対しまして、深い敬意を表したいと思います。

両国の犯罪学の交流は、広義の犯罪学の概念の下で行わなければならないと考えております。犯罪学の先祖であるイタリアの学者エンリコ・フェルリ氏のように、犯罪学が刑法学を含んでいると考えるべきではありません。刑法学は、それなりの、独立した研究対象をもっており、独立した学問です。にもかかわらず、刑法学において研究される刑罰の問題を社会背景の下で認識して、研究することは許されます。刑法学で研究される刑罰が社会背景の中で認識される場合には、刑罰は、依然としてなくてはならない措置であります。しかし、刑罰は、犯罪問題に対処する唯一の手段、唯一の方策ではありません。しかも、あまり重要でない手段で、重要でない方策であると思います。実は、犯罪処理の面では、刑罰より更に重要な措置と方策があるべきです。

ただし、その場合に、刑罰は、社会における犯罪対処の不可欠な手段・方策として、ロジックの面で、犯罪の対処を研究する犯罪学の有機的な構成要素となるのです。それゆえ、犯罪学の学术交流は、社会とのマクロ的な視点から刑罰問題を思考し研究することを回避してはなりません。従って、犯罪学の学术交流は、犯罪学の視点から刑罰問題を研究すべきで、つまり、広義の刑法社会学の内容を含むべきです。中日犯罪学の交流にも、マクロ的な刑法と刑法学の内容がなければなりません。その為に、中日犯罪学学术交流は、特に両国の刑法学者の参与を望みます。

現在、数年間の努力を経て、中日犯罪学交流は、喜ばしい局面が出現しました。即ち、両国の犯罪学の交流は、すでに単なる学术交流のレベルを越え、科学研究プロジェクトの実質的な共同作業のレベルに入りました。日本

の社会安全研究財団がご支援なされた「中日組織的犯罪に関する共同研究」というプロジェクトは、すでに関係部門の認可を獲得し、現在準備作業が順調に行なわれています。もし特別な事情がなければ、来年の上半期に正式にプロジェクトの研究段階に入るわけです。それは、中日両国の犯罪学と犯罪学者の間の協力と交流を大いに促進し、又、その学術的な意義があるばかりでなく、他の方面にも深い影響を及ぼすに違いないと深く信じております。

中日犯罪学の交流は、今日のような程度と水準になっていますが、容易なことではありません。それは、多くの中日両国の学者が協力し合った努力の結果です。その中で、長い間、中日友好のために労苦を厭わない西原春夫先生のことを申し上げなければなりません。数年間にわたって、西原先生は、日本早稲田大学元総長、アジア平和貢献センターの理事長として、中日両国の人民の子々孫々までの友好、中日刑事法学の交流を促進するあふれんばかりの熱意で、疲労に頓着せずに両国間を奔走し、両国の犯罪学の学術交流と共同研究が実現するようにお力を尽くされ、両国の犯罪学の交流と共同作業のために、消すことができないご貢献をなさいました。私たちは、西原先生に、最大限の心からの感謝と最大限の真摯な敬意を表したいと思っております。

今回のシンポジウムのテーマは、精神障害者の危害行為の予防対策です。両国学者の入念な準備で、これからの二日間充分に交流することになりました。今回の交流は、必ず豊かな成果を獲得することができると信じております。

今回のシンポジウムを準備するために、中日両国学者は、多くの努力を払われました。私は、主催者である中国犯罪学研究会と日中犯罪学学術交流会を代表して、皆様に心から感謝の意を表します。

もう一つ申し上げたいのは、中国青年政治学院が今回のシンポジウムを支持し、お力を尽くしてくださいました点についてです。主催者の中国犯罪学研究会と日中犯罪学学術交流会を代表して、心から感謝申し上げます！

最後、一同は手をつなぎあって、中日両国犯罪学と犯罪学学術交流の益々の発展と、中日両国人民の子々孫々までの友好のために、たゆまなく努力し

てまいりましょう。

中日両国の犯罪学の学术交流が絶えることなく発展し、新しい業績を獲得することを、改めてお祈り申し上げます。

今回のシンポジウムが成功裏に終わることをお祈り申し上げます！

中国犯罪学研究会会長

王 牧



第一屆中日犯罪學學術研討會
第一回日中犯罪學學術シンポジウム

精神障碍者危害 行为预防对策

精神障碍者危害行爲に対する予防対策

主办：中国犯罪学研究会
日中犯罪学学术交流會
承办：中国青年政治学院法律系
时间：2007年10月27-28日
地点：中国青年政治学院学术报告厅